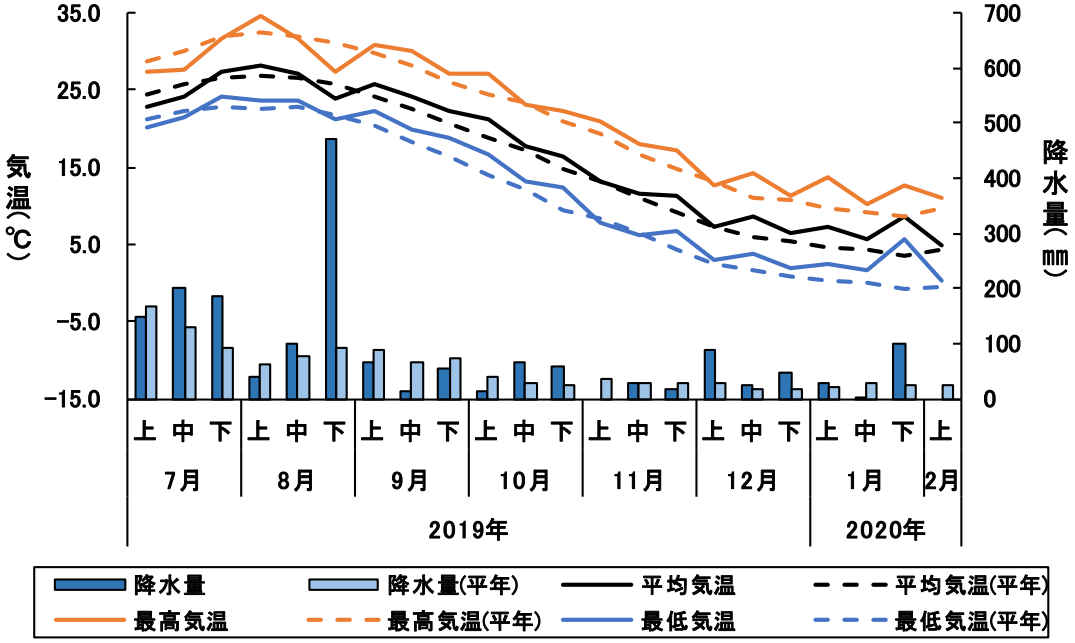
令和２年お茶づくり技術情報（No.１）

2020 年（令和 2 年）2 月 21 日
佐 賀 県 茶 業 技 術 協 会
佐 賀 県 茶 業 試 験 場

1．気象と生育

（1）これまでの気象と生育



1）気温は、7～8 月は平年より低く、9 月以降は平年より高く推移した。

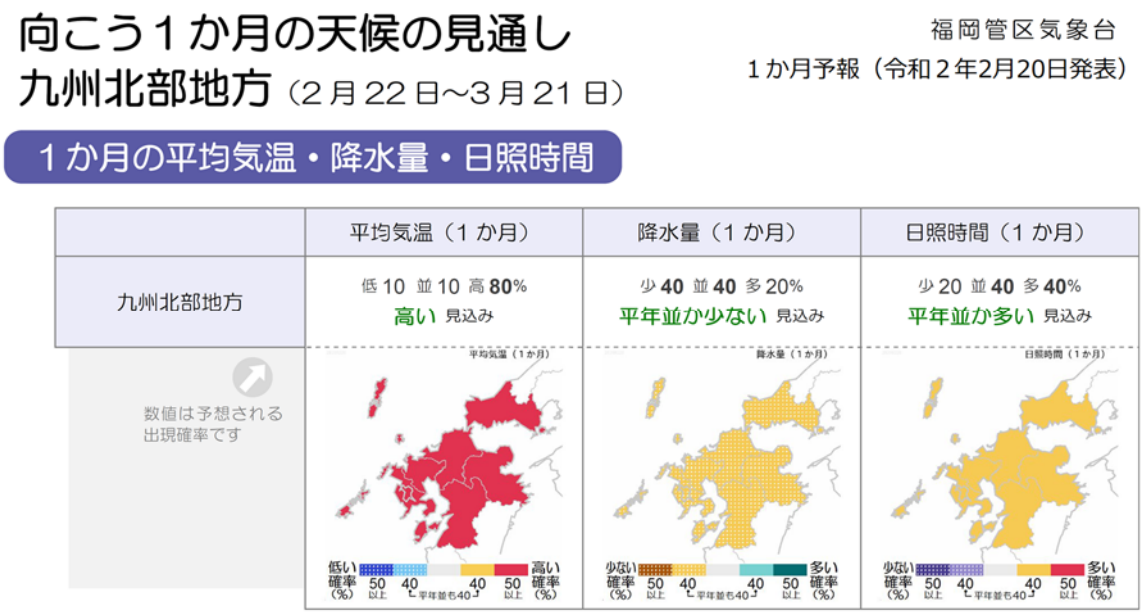
2）降水量は、平年より多く、特に 12・1 月が多く、高温多雨傾向であった。

3）夏季の適度な降水により、秋芽の生育は良好であった。本年は、越冬芽の生育が進んでおり、一番茶の萌芽、生育が平年より早まる可能性が高い。

写真　さえみどりの越冬葉
（2/21 撮影、秋整枝 10/21）

写真　やぶきたの越冬葉
（2/21 撮影、秋整枝 10/21）

（２）今後の気象の見通し



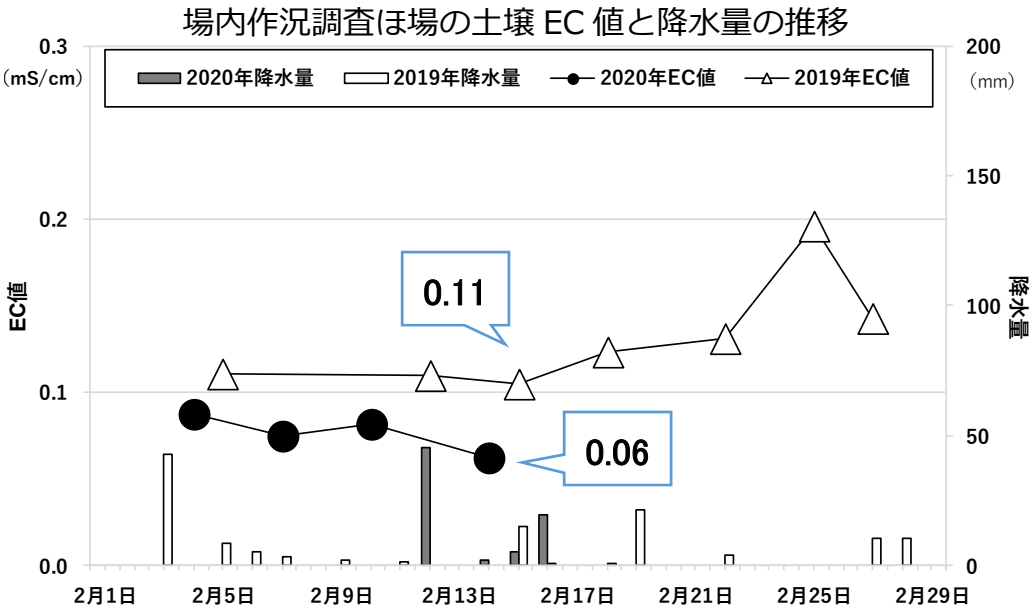
２．今後の管理

（１）施肥管理

１）試験場内の土壌 EC は、降水量が多いため、前年より低く推移している。

本年も温暖な気候で生育が早まる傾向にあることから、春肥から施肥が遅れないようにする。

２）一番茶芽出肥の施用は一番茶摘採の３０～４０日前を基本とし、施肥後は土壌と十分混和する。



（２）整枝（化粧ならし）

１）３月上旬を目安に、新芽が秋整枝面より上部に出る前に必ず済ませる。本年は越冬芽の生育が早いため、遅れないよう注意する。

２）絶対に新芽を傷つけないように、ハサミは秋整枝面より深く入れない。

３）やむを得ず、作業が遅れ、秋整枝面より新芽が伸び上がった場合には、やや高めにハサミを入れ、できるだけ新芽を傷つけないようにする。

４）再萌芽している茶園の整枝の目安

○再萌芽した芽が開葉している　→　化粧ならしで除去する

○再萌芽した芽が開葉していない　→　秋整枝面より５mm 程度上げて、出芽した芽を切らない

（３）防霜対策

１）防霜ファンは萌芽２週間前からの稼働を基本とし、必ず早めに事前点検（温度センサー、首振り状態）を済ませておく。本年は例年より越冬芽の生育が進んでいる傾向にあるため、稼働が遅れないように注意する。

２）防霜ファンの設定温度は茶株面で３℃（茶株面より樹体は２～３℃低い）を基本とし、過度に設定値を上げない（晩霜害の発生助長やランニングコスト高となる）。

３）凍霜害の影響を受けた場合は、以下の対応例を参考に管理を行う。

<table>
<tr><th>生育ステージ</th><th colspan="2">被害程度</th><th>対応策</th></tr>
<tr><td>萌芽期～２葉開葉未満</td><td colspan="2">被害の程度にかかわらず</td><td>そのままにしておく</td></tr>
<tr><td rowspan="4">２葉開葉～４葉開葉</td><td colspan="2">1.部分的で被害部と無被害部がはっきりしている場合</td><td>そのままにしておき、拾い摘み、または部分摘採を行う</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2.部分的で被害部と無被害部がはっきりしない場合</td><td>①被害芽率が低い場合</td><td>そのままにしておく</td></tr>
<tr><td>②被害芽率が高い場合</td><td>被害部を除く程度に軽く整枝する</td></tr>
<tr><td colspan="2">3.被害が全面的の場合</td><td>被害部を除く程度に軽く整枝する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">摘採期直前</td><td colspan="2">1.被害が部分的の場合</td><td>拾い摘み、または部分摘採する</td></tr>
<tr><td colspan="2">2.被害が全面的の場合</td><td>刈り捨てて二番茶に期待する</td></tr>
</table>

※『茶大百科Ⅱ（農文協）』から抜粋

（４）病害虫対策

病害虫防除については、『令和２年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。